

す ず ら ん

3号



もくじ

・援助者として	2
・新事業紹介(職能部・生活支援部門)	3
・みんなの声(鑑・絵について)	4～5
・新施設について	6
・フレンドが変わりました	6
・委員会だより	7
・企業と福祉	8

絵：宮城 恵沢
(絵画クラブ)

発行日 1997年2月20日

社会福祉法人 すずらんの会

理事長 大長 義信

神奈川県相模原市麻溝台743

☎ 0427-77-1790

フレンドリー ガーデン

援助者として

渡井 泰子

すずらんの家で、当初補助指導員として働き始めてから、早くも10年がたつ。これまでのすずらんの会の事業展開を振り返って、已ずとみえてくるものは、ひかれたレールの上を走るだけでは、必要とされるサービスの内容はわからなかっただろうということだ。サービスの提供は、その内容を一律に考えることができない。利用者の声を聞いて進んで行くと、道のないところに踏み込んで、道を探って歩まざるを得ない。援助側としては、これでいいのだろうか、と迷い、考え、論争し、いろいろ試みてみる。企業内作業所、法内施設、活動センター、それぞれに特色をもつ地域作業所、近年は生活支援として、生活ホーム、グループホーム、訪問事業、一時利用、就労援助…などの事業も、制度に合わせたサービスの提供を実践しているだけでは生まれようがなかった、と思う。「前例がない」「危険だ」「保証がない」…etc。さまざまな声、意見(?)の中で利用者が道を示し、答えを導いて来てくれた。この数年、就労援助を含めた生活支援、つまり、利用者が通ってくるのを迎えるサービスではなく、利用者の元へ出向いて行ってサービスの提供をする部門での役割を担う中で、益々、強くする思いは、必要とされるサービスは、利用者にとっても、援助者にとっても、初めから分かっているのではない、いろいろ試みて、分かってくるということだ。ここで、サービスの提供を生業とする援助者として、非常に重要なことは、利用者の声が聞けるか、ということだ。ものを言えぬ利用者もいる、言いたくても言わない利用者もいる。時として、援助側は、利用者が言えぬ、言わないのをよいことに、援助側の都合で、サービスを決めていないだろうか。利用者は必ずサインをだしている。全身で表現している。援助者自身が、一人の人間として、どう生きて行きたいか、何を大切にして生きて行くのか、見つめて行くと、そのサインが見えてくるのではないか。今後も、法内施設は措置制度に甘えることなく、そのサービスの質が検証されなければならないし、各エリアで提供されるサービスの内容は、どんどん変わっていくであろう。利用者の声を感じていれば、変わらざるをえないのだ。私たちは、また、迷い、考え方論争し、いろいろ試みて必要とされるサービスの提供に努力していきたい。



農園芸作業を中心とした作業所として4月に開所しました。半年前より準備を進めてきたこともあり、予想以上に野菜の収穫をあげられ、5月下旬から相武台団地内の作業所兼店舗で週一回販売を行っています。周囲の商店の方々の理解と協力の下“採れたて新鮮野菜”“低農薬・有機野菜”的直売が受け、売り上げも好調です。畑は、フレンドの横の他二ヶ所、計約900坪を借りています。

農園芸作業の他には、天候や時期により、下請け作業を行ったり、クリスマスや正月飾り等の自主製品も作りました。所員は今のところ男子ばかりで、賑やかです。自然相手の作業や販売という始めての作業に当初はとまどいを見せていましたが次第にのびのびと楽しんで作業するようになってきました。いろいろな作業を経験しながら、労働への意欲、意識づけを高め、又、自然の中で精神的安定を図りながら、次のステップへつなげていかれる作業所になればと思います。

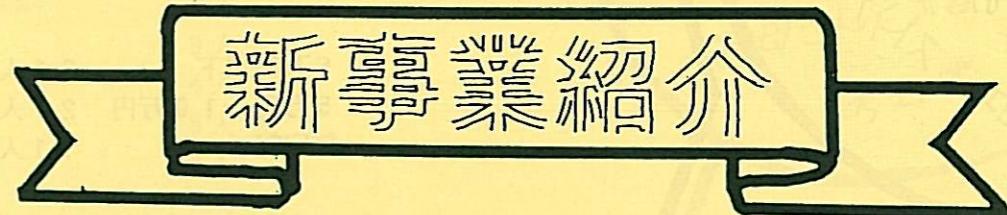
〈坂田 ひとみ〉



企業内作業所としてスタートした私達「ワークショップ・パートナー」は相模原市小町通り、相模線の南橋本駅から歩いて20分ぐらいの所にある大協技研工業(株)小町工場内にあります。まわりは工場や会社が多く、会社ぐるみで温かく迎えて下さる社員3名の方と一緒にテープ加工の作業をしています。テープを切る・余分な箇所を取る・貼る等の事によりお客様の要望により近い形にしています。その作業を行っていく中でメンバー、一人一人の経験・企業との関わり・仕事の進め方等を習得していく場となるよう企業と連携を取りながら進めています。

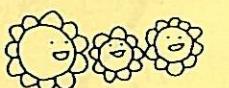
メンバーは自立心旺盛な方が多く、生活ホームで暮らし、より豊かな生活をしたい人、目的の為にお金がたくさん欲しい人などさまざまですが、それぞれの目標をかなえていくお手伝いができればと思っています。又、一般就労に向けてのステップの場となるよう考えています。

〈佐々木 雅子〉



今年度から、2軒のグループホーム利用者のニーズにこたえて一人又は二人暮らしのできる、生活ホーム「パークハウス」が新たに加わりスタートしました。ここは四軒が一棟になっていてアパートと同じ感覚で生活できる様になっています。それぞれに玄関、水まわり関係、ガス台、ユニットバスが設置されていて、個人の時間や空間や生活がきちんと確保されています。二人部屋のところを、利用者の希望により今は各戸一人ずつ住んでいて、夕食時に限っては皆で集まって、いろいろ仕事の話や趣味、興味の話をして団欒をとりながら楽しく生活を送っています。環境的にも大変恵まれていて、前に広い公園があり、小学校があったりして毎日快適な気分で仕事に出ている様です。自立の面でも朝は自分で起きて食事をとって出勤する、そうじを自主的にする、体調をくずさない様に健康管理をするなど、今では生活の為に働くという意識も強くなり頼もしく感じる程です。

〈丸山 綾子〉



ヘルピングハンズでは、在宅障害児者一時利用事業を行っています。各エリアの方や、それ以外の作業所の方、養護学校へ通っている方など、様々な方の利用があります。利用される理由も、両親の仕事の都合、兄弟の学校行事等の関係、買い物、リフレッシュ等様々です。時間内に、利用者の方に少しでも楽しんでもらえる様に、その方にあった遊びを提供したり散歩へ出掛けたり、その都度考えています安全面でも、怪我などしない様に充分気をつけています。一人一人の性格、個性を大切にし、満足した時間をすごしていただける様な関係を作り上げていきたいです。また保護者の方にも時間のゆとりを持っていたくなど、少しでもお役に立てればと思っています。保護者の方とも信頼関係を築き、「ヘルピングハンズなら安心して預けられる」と言ってもらえる様な場所にしていきたいと考えています。より楽しく過ごしてもらえる様にスタッフ一同努力していきたいと思います。

〈井原 晶子〉



みんなのこえ

年金は血税です。



年金について・・・

回答者数 59名

使いみちは?

本人の生活費	31人
〃 小遣い	24人
物品購入	7人
旅行	5人
家族のために	10人
その他	8人

年金のために
私の自立をストップしないで

本人のために1ヶ月いくら使っていますか?

5万円以下	21人
5万円~10万円	27人
無回答	11人

年金のことを本人は知っていますか?

知っている	16人
知らない	43人

作業所でいいほうけんめり
働いてます。
年金をもらって暮して
いいのは才友です。

管理は誰がしていますか?

本人	8人
保護者	55人
生活ホーム(世帯)	1人

お母さん
パチンコ代に
しないで

年金カットの誤解・・・

成人を迎えると受給することができる年金ですが、たくさんお給料をもらうと年金がカットされてしまうのでは・・・?というような不安があるようです。

実際は・・・ 年収 483万2千円以上で 1/2 カット

年収 600万円 以上で 全額カット となっています

※詳しい事の問い合わせは、市役所年金課へ

給料について・・・

回答者数 40名

誰が管理しているの?

お母さんが	27人
自分で	10人
姉が	1人
生活ホーム(世帯)	2人



足りているのでこのままでいい
いっぱいあると使わねえ

何に使ってるの?

貯金	12人
趣味・娯楽	10人
食べ物	9人
生活費	4人
衣類等	8人
交通費	2人
旅行	1人

せっかく稼ぎを
お金だから
使い方も
お母さん一緒に
考えて

お給料はいくら欲しい?

1万円以下	4人
1万円 5万円以下	10人
5万円 10万円以下	3人
10万円 20万円以下	4人
今までいい	6人
もっとたくさん欲しい	7人
無回答	6人

全部自分で
使わせて

考えたことがない
今のままでいい

もっと欲しい
金額見はやからない



余暇活動委員会

新施設実現にむけて思うこと

吉田 孝子

穏やかに年が明けました。昨年は、オウム事件、エイズ問題、住専処理、厚生省汚職事件等かぞえたら、きりがない位に、問題山積の年でした。それだけに、今年が良い年でありますように、願わざには居られません。昨年の「すずらん父母会の総会」の折、通過施設としての、ワークショップ・フレンド退園後の件に話が及び、「是非、将来とも安心して通所出来る施設が欲しい」旨の要望を申し出ました処、大長園長より、「親御さんの強い要望があれば、考えてみましょう」との、心強いお返事を伺い、目の前が明るくなりました。

考えるに、福祉に対する社会の取り組みも年々変化して来て、3年前、5年前と比べると、大変な様変わりですが、それだからと云って、社会が変わるもの待っているわけには参りません。まず変わらなければならないのは、親達の思考ではないでしょうか。子供達の将来を考え、親子共々、安心して、毎日を過ごせる様になることを願って止みませんその為にも、前途が平坦とは思えませんが、新施設の実現にむけて、法人をはじめ、多くの方々と、力や知恵を寄せ合って、一步一步前進して行きたいと思っております。

皆様方の強力なお力添えを願って止みません。

フレンドが変わりました

遠藤 瑞枝

平成3年8月に授産施設として発足してから昨年8月で丸5年が過ぎました。現在利用者50名のうち18名が3社の協力を得て企業実習に出ております。私共は全員が必ずしも利用者全員が就労に結びつく事が良いと思っている訳ではありませんが、フレンドを出て企業の中で社員やパートの方々に混じり胸をはり生き生きと仕事をする姿を見ると社会に受け入れられている事の大切さを痛感します。では残る32名の利用者の援助はどのようにすべきか?授産施設として仕事に取り組む姿勢を育てその中で忍耐力や協調性、責任感等を学んで行く事はもとより、沢山、社会経験を積むことで地域や企業の中にスムーズに入る事が出来ればと考えました。

そこで、平成8年度の後期より4つの柱を考えました。

第1は娯楽で利用者自身が考えるお楽しみ行事を月1回程度行う。

第2は生活面の経験で、金銭感覚や交通マナー等を学び体験してみる。

第3はコミュニケーションとして自己表現が出来る様になれたらと思い色々援助して行きます。

第4の柱としてボランティア活動を取り入れました。お世話になるばかりではなく利用者の持てる力を社会に返して行きたいと思います。これはすでに具体的に始まっています。フレンド周辺と原当麻駅付近の空き缶拾い、特養老人ホームの月2回の清掃などです。

特に第2、第3の柱が出来る様になれば余暇の過ごし方の充実にもなるのではないかとも思います。後期は充分ではありませんが次年度へ向けて助走期間として歩み始めました。また、フレンドの次年度の目標も 1、人の話を聞く。2、挨拶返事と決まりましたので個人目標を含めますと責任の重大さを感じますが、スタッフ一同利用者の方を向いた援助を心掛けて行きますので温かく見守っていただければと思います。

法人内の各エリアの仲間が集まって、クラブ活動を始めてから5年が経ちました。節目の年ですので、年度目標を多くのボランティアさんにかかわってもらうことと、余暇活動の見直しをすることにしました。

より多くのボランティアさんに参加していただくためにボランティア協会、麻溝台高校相陽中学にチラシやクラブ活動ニュースの配布の労をお願いしました。その際に助言も頂きました。おかげさまで音楽クラブと手芸クラブではボランティアさんとの交流が得られるようになりました。

余暇活動の見直しについては、これまでの施設主導型でやってきたことへの反省と、今後の方向性を探るためにアンケートをとりました。

中間報告の段階ですが、こんな仲間の声が聞こえます。

- ・クラブ活動をしてきて「生活や仕事が楽しくなった、友達ができた、出来ることがふえた」「趣味の教室や同好会で友達を沢山つくりたい」「イベントの情報を活用したい」
- ・クラブに参加していない人は、「家でもテレビやC.Dや買い物をゆっくり楽しめる」「短時間内での施設までの往復や送迎が困難」

上記の声を踏まえ、従来の形に拘わらずに、余暇活動の場を地域に拓いていこうと考えております。

行事イベント委員会

法人内の交流と地域への啓蒙を目的として活動しています。

☆スポーツ大会 10月12日(土)パークレーン☆

昨年まで行なわれたポートボールは難しいという声をとり入れ、今年はボーリング大会を行ないました。当日はガーター防止柵をつけたため、ボールがビリヤードの様にはね返り、ストライクやスペアが連発! その他スピードはプロなみの人、砲丸投げのような人、ボールが途中で止まる人・・・。

95人という大人数だったため混乱もありましたが、年一度の法人合同行事、それぞれが自分なりに楽しみ、人のファインプレーを喜びあいました。

ボランティアさんどうも有難うございました。

研修委員会

利用者により良いサービスができるように、それには職員一人一人が疑問に思っている事、どうしたら良いのかわからない点を学習していく場が必要です。

委員会では今年度「職員としての資質を高めるため、内部研修の充実」を目的とし職員よりアンケートをとり、要望にそってテーマを決め、毎月第三金曜日(18:00~20:00)に内部研修を行っています。

外部の研修は今までどうり、情報を提供し意欲的に参加していただいている。

委員会

会員

会員

会員

会員

会員

会員



松屋 直人

昨年7月よりすずらんの会にお世話になり、早半年が経過しようとしております。当初経験のない世界での戸惑いもあり、慣れて来たとは言えまだ一人前には程遠い状況で皆様に御迷惑をお掛けしてばかりと申し訳なく思っております。

まだ充分に福祉の世界を把握できているわけではありませんが、半年前まで企業に勤めていた人間が感じた、企業と福祉との間の大きな差異は次ぎの通りです。

①努力して良い結果が得られた場合でも、福祉の世界ではその結果に見合う対価が得られない。

②法人間の競争がない。

③福祉職員の給料が低い。

どのような仕事にも共通していると思うのですが、仕事の質／内容／コストをより優れたものにして行かない限り、そこにはやりがいも生まれないし仕事の結果として得られる収入の向上にもつながりません。

我々の法人は、利用者に対するサービスの対価として措置費等を得て存続しているわけであり、サービスの内容を常により良いものにして行く責務を負わされていると思います。ただ、競争が無く得られた結果に対して何の対価も得られない場合には、努力する法人や職員の割合が少なくなるのはやむを得ない事かもしれません。

当法人職員の場合、このような状況下においてもより良いサービスの実現に向かって努力してもらっており、大変有り難い事と感謝しております。

また、不充分かもしれませんのが給料を得ている以上、慈善事業としてではなく仕事として取り組むべきと考えます。独善的なサービスの強要にならないよう、常にサービスの内容を検討して行く必要があると思います。実施するサービスが不良であれば、顧客（利用者）を失うことになりますし、顧客を失えば法人は存続できません。有り難いことに、現状施設の絶対数が不足しているため、サービス不良が顧客を失うことに直結していないようですが、将来的に見た場合そのような法人の未来は無いと思うべきです。

働く環境に問題は多いとは思いますが、福祉の世界に自分の意志で入り込んだ以上、現実は現実として認識し、この枠の中で最大限良いサービスを提供するよう努力するのが、福祉関係者の使命と考え、今後とも努力して行きたいと考えております。

編集後記

初めての広報誌作り、戸惑いながらも皆さんのご協力を戴き、とても楽しく作る事ができ、各ページ様々な思いを込め仕上げました。

私事ですが・・・発行日が誕生日と重なり、「そろそろ誕生日こなければ！？」と思っていましたが今年は、記念に残る日になりそうです・・・。

◎広報委員会では、今後も皆様からの投稿をお待ちしています。◎